

4番(川上晋平)登壇 私は、自由民主党福岡市議団を代表し、道路整備の推進について、スポーツ施設の整備について、公教育の責任について、3点について質問いたします。

まず、道路整備の推進についてお尋ねします。

私は、本市では都市の骨格となる幹線道路から身近な道路まで、これから整備すべき道路はまだたくさんあると思っていますし、地域の方々からも道路整備に対する要望は多く受けております。行政当局においては、本市の道路に関する課題解決に向け、国の補助事業を有効に活用しながら道路整備に取り組んでいることと思います。そのような中、本年9月に民主党政権になり、マニフェスト実現に向け平成22年度予算概算要求の見直しが行われました。9月29日に閣議決定された平成22年度予算編成の方針では、マニフェストに従い新規施策を実現するためにすべての予算を組み替え、新たな財源を生み出すこと、要求段階から積極的な減額を行うこととされています。

そこで、現在、道路整備関係においてどのような見直し状況になっているのかお尋ねいたします。

次に、スポーツ施設の整備についてお尋ねします。

スポーツは、市民の健康増進や自己実現、余暇活動の充実など個人の生活の質を高めるとともに、多くの人々に夢や希望、感動を与え、社会を明るくする働きもあり、市民の活力の源泉となっています。また、スポーツは仲間やコミュニティづくり、青少年の健全育成、都市の魅力、活力の創出など社会全体を活性化させる働きも持っています。このように、さまざまな効用を持つスポーツを振興し、スポーツのなかのかわりを通して、充実した市民生活と活気あふれる地域社会を実現することは、本市の都市政策上、今後ますます重要なことと考えています。本市では、昭和50年度に策定された市民スポーツ振興総合計画に基づき各区の体育館やプールを順次整備し、今では多くの市民が利用しておりますが、施設の老朽化や市民スポーツ活動の多様化に対応し、市民スポーツの振興を推進していくためには、その活動の場であるスポーツ施設が担う機能、規模等について改めて基本的な考え方を整理し、将来にわたり必要とされる施設については厳しい財政事情の中でも必要な未来への投資としてきちんと整備していくべきではないかと考えています。

そこでお尋ねいたします。現在、今後のスポーツ振興における基本的な指針となるスポーツ振興計画を新たに策定していると聞いておりますが、この計画の中でスポーツ施設を今後どのように整備し、また必要な機能の維持、確保を図っていくこととしているのかお尋ねいたします。

次に、公教育の責任についてお尋ねします。

福岡市教育委員会では、本年、新しいふくおかの教育計画を策定されました。ここでは、目指す子どもの像が、基本的な生活習慣を身に付け、自ら学ぶ意欲と志を持ち、心豊かにたくましく生きる子どもと掲げられ、本市の未来を担う子どもたちを育てる方向が示されております。すばらしい計画だと思いますが、果たして今の公立学校の現場が、本当にみずから学ぶ意欲と志を持ち、心豊かにたくましく生きる子どもが育つようになっているのでしょうか。ここにおられるほとんどの方も中学生時代があり、高校入試を経験されていると思いますが、現在の高校入試の方法や入試に向けての進学指導のやり方など、私たちのころとは大分違ってきているようです。私が中学生のころは中間テストや期末テストでは、クラス内や学校内での結果順位が提示され、それとは別にいわゆる業者テストと呼ばれているものが学校で年数回行われていました。そのテストではクラス内、学校内、福岡県内の結果順位と偏差値、そして志望校への合格判定が5段階で示され、私たちはそれにより自分の学力を客観的に知ることができ、自学の方法や目標に向けての確認をすることができていました。また、高校入試の方法も当時から内申書というものはありませんでしたが、特に大きな問題がない限りは学力検査の結果が重視されると説明を受けており、部活動を引退してからぐんと成績を伸ばし志望校に合格した先輩がいたことも覚えております。しかし、現在の公立の中学校では業者テストは廃止され、子どもたちは自分の学力を客観的に知る物差しを失い、志望校を選択することも志望校に向けてどれくらい努力をすべきかということもわからなくなっていると聞いています。また、高校入試の合格者の決定方法も変わっているそうです。

そこでお尋ねしますが、その時期の自分の学力を知ることができ、志望校を選択する上で有効な情報を提供していた業者テストがなぜ廃止されたのか、廃止したことによってどのような効果があったのかお尋ねします。

また、現在、高校入試はどのように行われているのか、入試に当たって重視されるという調査書の内容も含めてお答えください。

以上で1問目を終わり、2問目からは自席にて質問させていただきます。

4番(川上晋平) まず、道路整備の推進についてお尋ねします。

私はこれまでも指摘していますが、本市東部地域では夏場や土日休日のレジャー交通など渋滞が発生しており、またアイランドシティ事業を初めとするまちづくりの進展によって、さらに地域の交通渋滞が激しさを増すのではないかと心配しております。このような考えに基づき、平成20年9月議会において東部地域の交通体系の充実について質問を行い、それまで示されなかった東部地域の幹線道路の整備時期について示していただきました。現在も変更はないと思いますが、改めて現在の雁の巣レクリエーションセンター前交差点改良、海の中道大橋4車線化の整備の完了時期についてお尋ねします。

また、あわせて早期実現に向け検討をいただいているアイランドシティへの自動車専用道路の導入について、現在の検討状況をお尋ねいたします。

次に、スポーツ施設の整備についてお尋ねします。

市民スポーツの振興を図る上で必要な機能については、さまざまな方策の中から最も効果的、効率的な手法を選択し、将来にわたり確保を図るとのことですが、今後必要となるスポーツ施設についてお尋ねします。

市は平成7年に国際スポーツ都市宣言を行い、国際大会や大規模な国内大会を誘致、開催してきました。また、国際大会や大規模な国内大会だけでなく、市民みずからが行う各種のスポーツ大会も盛んに行われておりますが、大規模な大会が開催できる会場は限られております。特に屋内スポーツについては、大規模な観客席を持つマリメッセ福岡は展示場等の機能を備えた多目的施設であり、スポーツ専用の施設ではないため、さまざまなスポーツ大会の開催に適しているとは言えない状況です。大規模な観客席を持つスポーツ専用の施設としては、市民体育館、九電記念体育館がありますが、それぞれ建築後40年近くが経過し老朽化が進んでおり、今後大規模な大会を開催する上で支障があると考えられます。市民がみずからスポーツをする拠点として、またスポーツを見る拠点としては市民レベルの大会から国際大会や大規模な国内大会までの開催が可能な施設規模を備えた拠点体育館が必要であり、老朽化の進む市民体育館、九電体育館の今後も見据え、そのあり方について検討を行うべきではないかと考えますが、御所見をお伺いいたします。

次に、公教育の責任についてお尋ねします。

先ほどの答弁では、業者テストの廃止の理由は過度な受験戦争や不本意入学による高校中途退学等の問題が出たためとのことですが、それでは業者テストがなくなって受験戦争がなくなったのでしょうか。本年度初めの本市の子どもたちの通塾率は、小学校6年生で45%、中学校3年生で67%ということで3年生が部活が終わった今もずっとふえていることが予想されますし、家庭教師や通信指導などを行っている子どもたちもいるということで、かえって受験戦争が過熱しているように思われます。それどころか、学校で相対的な学力を知ることができなくなったために塾などに行かな

ければならなくなったのではないのでしょうか。中途退学者の割合も廃止前と変化はないようです。業者テストは、なぜやめなければならなかったのでしょうか。

次に、入試制度についてです。

先ほどの答弁では、調査書を重視し、調査書の第3学年の評定の合計と学力検査得点の合計が選考の主な材料になるということでした。実は、私はこのことを最近塾の先生から聞き、初めて知りました。そして、最も驚いたことは、例えばA高校に受かるためには第3学年の評定の合計が40必要だとか、B高校は評定が37必要で、それ以下だったら学力検査で幾らいい点をとっても受からない。そういう目安の数字を塾が持っていて、それを用いて中学校1年生から進学指導をしているということでした。それでは、公立学校はどうしているかというと、各学校で目安の数字のデータは持っているということですが、子どもたちや保護者に提示することはなく、3年時の進学指導時にそれをもとに進学指導をしているだけだということでした。入試制度の説明も入学時ではなく、ほとんどの学校で2年生の年末ぐらいに行っているということです。公立学校では業者テストが廃止になり、自分の学力を相対的に知ることができないが、塾では自分の学力を知り、目標に向かって指導を受けられている。塾では入試制度をしっかりと説明し、学校における中間テスト、期末テストもしっかり頑張るように指導しているが、学校では持っているデータも子どもたちに提示していない。塾に行っている子どもと行っていない子どもがこんなにも違っているのでしょうか。学校は高校入試を放棄して塾に任しているのではないのでしょうか。そう言われたいためにモズね、しっかりと公教育の責任を果たしてほしいと思います。

そこでお尋ねいたします。中学校に相対的な自分の位置を知らせることは公教育としての責任を果たすことであると考えます。業者テストではなくても、そのような仕組みをつくるべきだと思いますが、御所見をお伺いいたします。

また、今後、各学校の進学についての指導を公教育の責任でどう充実させていくのか、あわせてお伺いいたします。以上で2問目を終わります。

4番（川上晋平） 道路整備の推進についてですが、アイランドシティへの自動車専用道路については環境影響評価の手続きがスタートされているということであり、引き続き都市計画決定に向けしっかりと取り組んでいただきたいと考えております。しかしながら、県の都市計画審議会の新聞記事によると、環境影響評価から都市計画決定までの一般的な手続であれば3年から4年かかるということであり、この都市計画決定を経て事業化されると聞いていますが、これまで都市高速道路の工事实績から見ると5年くらいはかかるものと想定されることから、自動車専用道路の完成までにはあと10年くらいかかるものと考えられます。この間には、平成26年春、新病院や平成26年度の新青果市場が完成しているわけでありまして、これらに向けては海の中道大橋を初め、現在の都市計画道路の整備を着実に進められるよう要望するとともに、自動車専用道路については一年でも早い完成を目指し、市が一丸となって取り組まれるよう強く要望しておきます。

私は、アイランドシティ事業は本市の新たな拠点として今後、福岡市の発展を担う戦略的なプロジェクトであり、これが真の市民の財産となることを切に望んでいます。そのためには、まちの進展に合わせた交通基盤の整備充実が不可欠であります。また、幹線道路のみならず、私たちの身の回りには通学路における歩道整備や照明灯、ガードレールの設置、高齢化社会に対応する道路のバリアフリー化、悲惨な踏切事故や道路交通の遮断を解消する鉄道と道路の立体交差事業など福岡市には今後整備が必要な事業はたくさんあります。国に目を向けると、無駄を削ると言いながら道路関係予算を次々に削減しています。真に必要な道路は整備すると言っていますが、真に必要な道路は高速道路や国道ばかりではありません。本市では、先ほど述べたとおり、都市全体の交通を円滑に流す幹線道路や生活に密着した身の回りの道路も必要な道路であります。今の本市では無駄な道路をつくっているという状況にはないと思います。そして、このような道路関係予算で、本市にとって真に必要な道路の整備が本当に進むのかとても不安であります。私は、地方にとつて真に必要な道路の整備を行うのであれば、予算や権限を地方に移すべきと思っています。また、国にはまだまだ整備が必要な道路があるという地方の声をしっかりと届けるべきと思っています。このような時勢ではありますが、本市の東部交通体系を支える幹線道路や私たちの身近な道路の着実な整備に取り組むべきと考えておりますが、市長の決意をお伺いいたします。

次に、スポーツ施設の整備についてお尋ねします。

拠点体育館については、今後、調査検討を進めるということでございますので、ぜひ国際スポーツ都市宣言の理念を実現し、九州・アジア地域の交流拠点都市にふさわしい拠点体育館について、早急に具体化に向けた取り組みを進めていただくことを要望しておきます。

また、体育館だけではなく、春や秋には土日に大会が集中するため、野球やソフトボールのグラウンドを確保しづらいという市民の声も多く聞かれますので、平日も含めた有効活用など施設の円滑な運用を要望いたします。

一方、健康増進に対する意識の高まりや余暇活動の多様化などから、既存の施設にはない新たな施設の整備を求める声が高まっております。例えば、昨今、健康づくりや仲間づくりのためゲートボールやグラウンドゴルフを楽しむ市民が高齢者を中心として年々増加しておりますが、今後、高齢者にとどまらず子どもから高齢者まで幅広く楽しめるスポーツとしての普及が見込まれています。こういったスポーツが多く世代に幅広く普及することに伴い、子どもや高齢者が安心してスポーツを楽しめるよう、また市民大会など開催時に天候に左右されないよう降雨や直射日光を避けるための屋根を備えた多目的グラウンドの整備についての要望が寄せられております。

このように市民の新たなスポーツ活動の動向に対応するため、体育館やプールあるいは野球場やテニスコートといった既存のスポーツ施設に加え、市民からの要望の強い全天候型の多目的グラウンドなど、これまでになかった新たな機能を持つスポーツ施設の整備についても検討すべきと考えますが、御所見をお伺いいたします。

次に、公教育の責任についてお尋ねします。

みずから学ぶ意欲と志を持ち、心豊かにたくましく生きる子どもを育てるすばらしい目標だと思います。私は学ぶ意欲と志を持つためには、まず自分を知ることだと思います。それは、必ずしも学問だけではなくてスポーツやほかのことでいいのですが、ほとんどの中学生が高校へ進学する以上は、自分の学力を知ることが大事なことです。子どもたちのこれからの人生には、高校入試を皮切りにたくさんの競争もあると思います。時にはつまずくことがあっても、自分をしっかりと見詰めて、また目標に向かって努力できます。自分を知ることではかの人気持もわかり、思いやりが持てる、そんな子どもが本市から育ってほしいと思います。吉田市長におかれても、ラサール高校に入るため、目標に向かって努力された時期があったかと思いますが、思い出していただきながら、公教育の責任について、子どもたちの立志について御所見をお伺いして、私の質問を終わります。